

福祉の心を育てる教育の実践

米子市立福米西小学校

1. 本校の教育目標

「未来へ向かって 夢と希望をもち ねばり強く挑戦する 西っ子の育成」

◆教育推進の重点

- 豊かな心の育成 …自他の人権を大切にし、思いやる心と感謝の気持ちを育む仲間づくり
- 確かな学力の定着 …主体的な学びを通して、できる自分に自信をもつ
(伝え合う 学び合う)
- たくましい体の育成…運動習慣づくり及び家庭と連携した生活習慣づくり

2. 福祉教育の目標

児童・保護者を対象に社会福祉への関心と理解を深め、公共に奉仕する心情と社会連帯の精神と責任感を育成することに努め、進んで実践し活動することにより目標の達成にせまる。

3. 実践の報告

(1) 子ども同士のつながり

本校では、縦割り活動を通して、子ども同士のつながりを深める活動をしている。1年生から6年生のメンバーで構成された縦割り班（ふれあい班）で様々な活動を行っている。上学年が、上学年としての責任感や自覚を深めるだけでなく、異学年との交流をする中や、下学年の世話をすることで助け合いや思いやりの心を育むことをねらいとしている。

○赤い羽根募金活動

ボランティア委員会の5、6年生が全校児童に呼びかけて10月の1週間、募金活動を行った。

集まった募金は米子市社会福祉協議会に贈った。自分たちが募金したお金が福祉活動に使われる喜びを共有できた活動であった。



○書き損じハガキ、未使用切手集め

米子ライトハウスからの依頼を受け、ボランティア委員会が中心となって、1月から2月にかけて活動を行った。小さな積み重ねが福祉に役立っていることの実感をもつことができた。



○全校遠足

全校児童が縦割りグループで弓ヶ浜公園まで歩いたり、一緒に遊んだりして、楽しく交流した。遊んでいるときに、応援しあったり、声をかけあったりする姿が見られた。

(2) 福米中学校との連携

福米中学校区では、小学校・中学校が連携して、様々な活動を行っている。自分たちの住む地域を自分たちの手でより良くしていこうという、児童・生徒による主体的な活動が多く行われている。

○あいさつ運動

毎月月初めに、福米中学校の生徒と地域の方に小学校に来ていただいて各委員会の子ども達と一緒に、本校の校門や玄関前であいさつ運動を行っている。あいさつ運動を通して、よりよい地域づくりができています。中学校の生徒が、あいさつの良い手本を見せてくれることで、本校でも、良いあいさつが少しずつできるようになってきている。

○小中合同リーダー研修会

小・中学校の代表が集まり、自分たちの学校をよりよくするためにはどうすればよいかについて話し合いを行っている。小学生は、自分の学校の課題を持ち寄り、中学生を交えてどうすれば解決することができるかを話し合った。中学生はアドバイスをしたり、上手に小学生の意見を引き出したりし、小学生も自分の考えをはっきりと発表することができた。その後は各学校に話し合いの結果を持ち帰り、委員会活動などに活かされている。



4. おわりに

様々な立場の人と触れ合い、その喜びを感じる中で、子ども達は子ども達なりに思い、考え、少しずつ相手を理解しようとしたり、思いやったり、進んで関わろうとしたりする姿を見せてきている。また、地域の人との出会いやふれあいを通して、子ども達は地域の人々のすばらしさや優しさ、ボランティア活動の尊さを感じることができる。そして、地域のよさに気づき、自分の生き方を見つめることができる。地域の方と交流をしていくことで、地域に関心をもって生活できる子ども達を育てることができた。今後も地域の方を含め、中学校区でしっかりと連携し、自分が住む地域に関心を持ち、より良くしていこうという気持ちをもった子ども達を育てていきたい。